徳島・観音寺遺跡

1　所在地　徳島市国府町池尻字高道

2　調査期間　二〇〇一年度調査　二〇〇一年（平13）四月～二〇〇二年三月

3　発掘機関　(財)徳島県埋蔵文化財センター

4　調査担当者　氏家敏之

5　遺跡の種類　自然流路

6　遺跡の年代　古墳時代～中世

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

観音寺遺跡は吉野川の支流である鮎喰川の左岸、標高約六mの沖積地上に立地する。発掘調査は一九九六年より継続して行なわれており、阿波国府推定域の西側を北流していた自然流路内を中心として、多くの木簡や木製品類が出土している。

（川　島）

本調査は一九九九年度に阿波国内の郡名を列記した木簡が出土した敷地遺跡（本誌第二二号）と二〇〇〇年度調査区の間に挟まれた地点である。調査区内では前年度の調査区からの続きとみられる自然流路が検出された。流路は北西方向に流れ、敷地遺跡で検出された館跡と考えられる掘立柱建物群の南西部に隣接する。幅は約三〇mで下層より七世紀の遺物が出土しているが、その後大半部分は湿地状に変化し、上層での川幅は二～四mほどに狭まる。木簡は八世紀の遺物を包含した上層の堆積中から出土した。

8　木簡の釈文・内容

(1)　(113)×25×2　039

・「〈三間三間間

・「〈□□□□

平面形状は長方形で、上部の左右に切り込みがあり、下部は折損によって失われていた。内容は三間（美馬）郡の郡名を習書したものと考えられる。美馬郡は天武朝以前に立評されたことが、飛鳥池遺跡で出土した木簡から明らかにされている（本誌第二一号）。本木簡は飛鳥池遺跡の例と同様の表記方法がとられたものであり、阿波国域内で三間（美馬）郡関連の記載をもつ木簡としては初出のものである。

9　関係文献

(財)徳島県埋蔵文化財センター『観音寺遺跡Ⅰ』（二〇〇二年）

（氏家敏之）